

学生による募金活動の報告

東日本大震災で被災された方々の支援のためにボランティアセンター学生スタッフを中心とする関大生が募金活動を行いました。募金にご協力くださった皆様、ありがとうございました。

募金金額1,728,203円の支援先は下記の通りです。

- ・1,001,702円は、日本赤十字社を通じた被災地への支援
- ・726,501円は、被災した本学学生への支援

※詳しくは関西大学ボランティアセンターのホームページをご覧ください。

新メンバー入りました!

2回生1名、1回生5名が学生スタッフに加わりました。まだまだ分からないことばかりですが、これから一生懸命頑張ります!

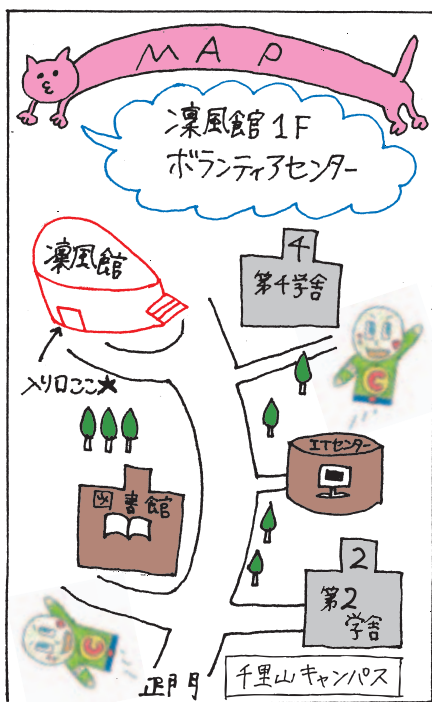
ボランティアセンター学生スタッフは関大生にボランティアを広めることを目的として活動しています。ボランティアを広めたい方、何か企画をしたい方、少しでもボランティアに興味のある方はボランティアセンターへ!



編集後記

- 初めてのボラリー編集。本当に形になるのかドキドキしたけど、色々な人の協力のおかげで完成できました!皆さんありがとう。(かな)
- ボラリーの制作に携わったのは初めてで大変な事もありましたが、とてもやりがいがありました。たくさんの人に見て頂けることを願っています!(みっちゃん)
- それぞれのページに、編集委員の伝えたいことがたくさん詰まっています。これを読んで、みなさんがどのように感じるか、とても楽しみです。(あーのるど)
- 初めてボラリーを作りました。なかなか慣れないことが多く大変でしたが、とてもやりがいがあり、良い経験になりました。(いと)
- おっ!おもしろいな、そう感じる文章とはどんなのだろう。常に考えながら読み物を手に取るようになりました。もう編集作業の虜ですね。(編集長なっちゃん)
- ボラリー編集経験者として、メンバーや読者のみなさんに対して「伝える」ことの難しさを改めて感じました。私たちの気持ちが伝われば嬉しいです!(補佐みっきー)

- 本誌を作ることで、学生スタッフと「一致団結」できたと思います。はじめは不安でしたが、とにかく今は無事完成してホッとしています。(VC職員M)



Volury

ボラリー 関西大学ボランティアセンター通信

一致団結!!

Vol.15

発行日: 2011年(平成23年)7月8日
発行: 関西大学 ボランティアセンター
大阪府吹田市山手町3丁目3-35
〒564-8680 / TEL.06-6368-1121
<http://www.kansai-u.ac.jp/volunteer>

～みんなで大きな力に～

Index:

東日本大震災を考える

地震が起きたその時…!!

ボランティア体験ツアー
～淀川掃除ボランティア～

第3回学生スタッフボランティア体験隊

東日本大震災で被災された多くの方々に、心よりお悔やみとお見舞いを申し上げます。

今私たちにできること



私たち関西大学ボランティアセンター学生スタッフは、今のような被災地支援ができるのかを考えています。学生スタッフ前代表であり、東日本大震災に関して積極的に支援を企画している小林哲平さんに、インタビューをしました。

小林「震災後、いてもたってもいられなくなり、被災地に行って支援を、冷静に考えたいと思いましたが、冷静に考えると震災後すぐ被災地に行くのが、情報不足、交通手段がない、安全性など様々な面で現実に無理だと思えました。そして自分に行きたくないと考えた結果、行動に移せたのが募金でした。募金活動を行うまでも様々な困難が立ち上がりました。具体的に一つ例を挙げると、募金活動参加者の数の上限を決めるという事です。もちろん、できるだけ多くの関大生と募金活動をしたかったのですが、現実的に、管理面から人数制限をせざるを得ませんでした。参加を希望していたけれど、参加

「今回の震災で、どのような支援を行いましたか？」

小林「ボランティアセンターでは東日本大震災復興に対する支援を企画しています。ここでは被災地の支援も視野に入れた、**長期的な支援**を行っています。この先もずっと、学生スタッフも関わっていきたいと思います。」

「これからはどのような支援を行っていくつもりですか？」

「できるなかった学生には、大変申し訳なかったです。このような困難が他にもたくさんありました。さんと**一致団結**して、乗り越えることができた。始めは何かしたいという気持ちが強すぎて、突っ走ってしまいました。が、色々な人の意見を冷静に聞き、支援を行う際は、**被災地にとって何が必要なのかをしっかりと考えることも大切である**と思えました。」

最後に・・・

復興には、長期的な支援が必要です。支援には被災地に行く以外にも、今ここにできることがあると思います。これからも、被災地にとって何が必要なのかを一番に考えて支援していきたいです。そして、今回の震災をしっかりと心に刻み、当事者意識を持って次に活かさねばならないと思っています。

こんな場所にいたら

いつ発生するか分からない地震。起きた時にパニックに陥らないためにも、事前に対処法を考えましょう！

地下街

あわてて地上に飛び出すのは危険です。揺れがおさまるまで壁際で身を守りましょう。停電になってもすぐに非常灯がつくので、あわてず出入り口へ向かいましょう。



路上

窓ガラスなどの落下物から頭をカバンなどで保護して、空き地や公園などに避難しましょう。ブロック塀や自動販売機などには近づいてはいけません。また、近くに空き地などのないときは、周囲の状況を冷静に判断して、建物から離れた安全性の高い場所へ移動しましょう。



劇場・ホール

カバンなどで頭を保護し、座席の間に身を隠し、係員の指示に従いましょう。あわてず冷静な行動をとってください。



デパート・スーパー

カバンなどで頭を保護し、ショーウィンドウや商品などから離れましょう。柱や壁際に身を寄せ、係員の指示に従い落ち着いた行動をとってください。

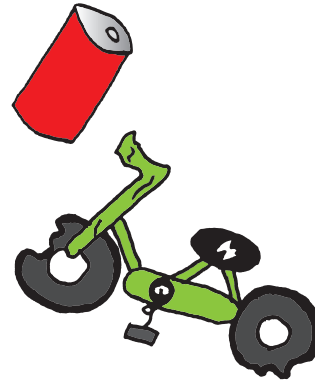


参考：吹田市防災ハンドブック

http://www.city.suita.osaka.jp/kakuka/bousai/HB_titl.html

毎月第1日曜日の午前中に実施しています。毎回大勢の関大生が参加し、一人で参加する方もたくさんいます。何かボランティアをやってみたくれどきっかけがない…というあなた！私たちと一緒に、楽しみながら淀川をきれいにしませんか？

また、今年の8月には大規模な淀川掃除イベントも行います。関大生同士力を合わせ、楽しく掃除を行う予定です。



淀川掃除の歴史をたどろう！

淀川掃除の実施は今年で5年目になります。そこで、淀川掃除のこれまでを年表でたどってみましょう。

2007年9月

「ボランティア体験ツアー」という位置づけで、淀川掃除開始。

2008年5月

活動中に蛇が出没。ボランティア体験ツアー存続の危機。

2009年7月

参加者**500名**突破！

2010年4月

活動場所がJR野田駅周辺から阪急南方駅周辺に変更。

2011年1月

淀川サポーターに認定。

2月 参加者**1000名**突破！



たった数人で
始めました



こんなゴミ
まで!?



仲間が増えました



淀川掃除に参加している、関大生へのインタビューを実施しました！

法学部3回生

小島裕一郎さん



Q. いつから参加していますか？

A. 2回生の夏から参加しています。

Q. 参加したきっかけは何ですか？

A. ボランティアに興味はあったんですが、勇気が出ませんでした。そんな時に、掲示板で淀川掃除のボランティアを知って参加しようと思いました。都会でもきれいな所があるんだよと、淀川のイメージアップをしたいですね。

Q. 初めて参加したときはどうでしたか？

A. 1人で参加したので不安がありました。しかし学生スタッフや他の学生も声をかけてくれ、楽しく活動できました。1人だから参加しようか悩んでいる人には、安心して参加してほしいですね。

学生スタッフ
よい

淀川掃除のベテラン小島さん、今回も頑張っておられました。きれいな淀川を目指して、共に頑張りましょうね。



政策創造学部1回生

高橋志帆さん

初参加♪

Q. 参加したきっかけは何ですか？

A. 友達に誘われて興味を持ったので参加しました。大学生になったので何かしてみたいと考えていたのですが、自分のやりたいことを見つけるいいきっかけになると思ったんです。

Q. 何かびっくりしたごみはありましたか？

A. まず、ごみの量の多さに驚きました。ペットボトルや缶だけではなく、布団や自転車など大きなごみもたくさんありました。

Q. 参加して良かったことはありますか？

A. たくさんの人と話すことができたと思います。1回生だけでなく、上回生の方と話すこともできて関大生との輪が広がりました。

初めてにも関わらず、積極的にごみを拾っている姿が印象的でした。楽しんでくれたようで、良かったです！

学生スタッフ
よい

ここでは、私たち学生スタッフが実際に体験&取材をしてきたボランティアを紹介しています。今回は、「つながり」・「一致団結」をテーマに、ボランティア活動中に感じたことについてまとめました。さらに、学生スタッフがボランティアを通じて経験した「出逢い」についても聞いてみました。



吹田まつり（イベント運営）

私は前夜祭に参加し、吹田市の江坂公園で子ども向けの工作コーナーの補助をしました。立ちっぱなしの作業でしたが、子どもたちと一緒にでんでん太鼓などを作り、地域の方々ともふれあえたおかげで楽しく取り組みました。また、学生ボランティアは事前に行われる準備会でも実行委員の方々と一緒に活動します。そのため、「絶対、祭りを成功させるんや！」という気持ちみんなが持っていて、一丸となって活動する喜びをより強く感じました。

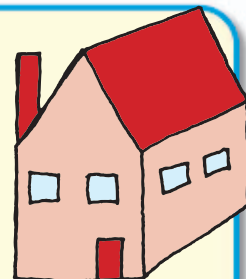
絆の深まりを感じています！

ボランティアを通じて様々な年代・職業の方々や、同じようにボランティアに打ち込む仲間と出逢い、絆が深まるのを感じる中で、人と関わることが大好きになりました。様々な活動に参加する毎に大切な人達とのつながりが増えていくことがうれしいです。

(2年次生 女子)

障がい児童見守りの場 わかば（学童保育）

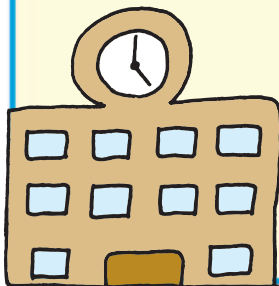
障がいのある小中学生と放課後、一緒に遊ぶボランティアです。活動前に、スタッフが子どもたちの性格について説明してくださるので安心して活動できます。「遊ぼう！」と積極的に声をかけてくれる元気いっぱいの子もたくさん話しながら、夢中になって活動しました。手作りのおやつを喜んで食べているのを見ると、こちらまでうれしくなります。平日の短い時間でしたが、終始子どもたちとのつながりを感じられたひと時でした。今度は夏休みに参加したいと思っています。



まさに一期一会！

たくさんの人とふれあえることもボランティアの魅力のひとつです。上記のボランティアのように、初対面の人であっても、活動終了までにはすっかり仲良しになっていることがよくあります。私はこうした出逢いを大切にしながら、ボランティアに参加しています。

(2年次生 男子)



ボランティアコーディネート実施中！

みなさんの目的に合ったボランティア情報を紹介することを、私たちはボランティアコーディネートと呼んでいます。私たちの体験談も交えながら紹介することでイメージがつかみやすく、さらに「こんなボランティアもあるんだ！」という新たな発見があるかも!? 毎週月～金曜日に行っているの、ぜひ来てください!

※都合により実施できないことがあります。

